

第6章 実証研究「障がいのある方を対象とした体験活動支援施設における事業の実証研究」

- 1 調査の目的
- 2 プログラムの概要
- 3 調査の概要
- 4 調査の結果
- 5 考察（成果と課題）

第6章 実証研究「障がいのある方を対象とした体験活動支援施設における事業の実証研究」

1 調査の目的

障がい者の生涯学習を推進していく上で、学びを身近で支える教育行政の果たす役割は重要とされている。本研究は、障がいの有無に関わらず、全ての人が体験できる青少年教育施設における活動の実践や参加者への調査を通じて、今後の障がいのある方を対象としたプログラム実施に向けた実証研究を行う。

2 プログラムの概要

(1) 目的

障がいの有無に関わらず、全ての人が体験できる青少年教育施設における活動の実践や参加者への調査を通じて、今後の障がいのある方を対象としたプログラム実施に向けた実証研究を行う。

(2) 実施日

- ①令和5年(2023年)2月11日(土)～12日(日) 1泊2日
- ②令和5年(2023年)2月13日(月)

(3) 活動場所

- ①北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル足寄(十勝管内足寄町)
- ②北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル厚岸(釧路管内厚岸町)

(4) 参加実績

- ①足寄: 5名(障がいのある方4名、介助者1名)
- ②厚岸: 5名(障がいのある方3名、介助者2名)



雪に覆われたネイパル足寄



ネイパル厚岸のアイスクャンドル



(5) 運営者

①足寄：10名

- ・北海道立生涯学習推進センター職員3名
- ・北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル足寄職員2名
- ・北海道教育庁十勝教育局職員1名
- ・サウナ普及団体3名
- ・保健師1名

②厚岸：11名

- ・北海道立生涯学習推進センター職員1名
- ・北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル厚岸職員5名
- ・北海道教育庁社会教育課職員1名
- ・サウナ普及団体3名
- ・看護師1名

(6) プログラムデザイン

①足寄

1日目

	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	17:30	19:00	20:00	21:00	22:00
	開会式	ブレイク アイスク	テー オリ エン	入室 活動 準備	サウナ講義	テントサウナ体験 (屋外特設設備)	入浴	夕食	軽スポーツ ポッチャ 体験	就寝 準備	就寝

2日目

6:30	7:30	8:30	9:00	11:00	11:30	12:30
起床・ 布団消毒	朝食	部屋 清掃	コーヒー教室	ふりかえり	昼食	閉会式

- ・体験活動①「サウナ講義・体験」：サウナについての学び（注意事項とサウナによる効果）と屋外テントサウナを体験する講座型体験活動
- ・体験活動②「ポッチャ」：ポッチャ体験を通して参加者同士の交流を図る軽スポーツ活動
- ・体験活動③「コーヒー教室」：リラックス効果のあるコーヒーの学び（コーヒーについて）とハンドドリップ実践の講座型体験活動。

②厚岸

15:30	15:45	16:30	16:35	16:50	17:30	18:30	19:00	19:30
開会式	軽い運動体験	活動準備	サウナ講義	テントサウナ体験 (屋外特設設備)	入浴	夕食	ふりかえり	閉会式

- ・体験活動①「軽い運動体験」：「体を動かす心地よさ」を体感する軽い運動体験
- ・体験活動②「サウナ講義・体験」：サウナについての学び（注意事項とサウナによる効果）と屋外テントサウナを体験する講座型体験活動

(7) 実施の準備・運営と指導

プログラムを運営・指導するにあたって、次の事項に留意した。

- ・コロナ感染症対策：参加者のマスク着用、検温、手指消毒を徹底するとともに、活動の際はソーシャルディスタンスを保つなど感染症対策を講じた。
- ・ヒートショック対策：事前に参加者の健康チェックを行うとともに、活動前には入浴して体を温めてからサウナを利用するようにした。また、看護師を配置するなど安全面の確保に向けて配慮した。
- ・障がい種の把握：参加者を対象に事前調査を実施し、障がい種や体験活動の経験の有無など、参加者一人一人の特性を把握し、施設の利用やプログラムの運営の際に必要な支援について配慮した。
- ・事前踏査：運営者とサウナ業者が活動場所を事前に踏査し、安全に活動できるような環境を整備した。また、運営者がオンラインを活用して事前に綿密な打合せを行って当日に臨んだ。

3 調査の概要

(1) 調査の概要

「インクルーシブキャンプ In ほっかいどう」実証研究（青少年教育施設における事業の実証）

- ・社会教育施設における障がい者への支援体制・状況
- ・社会教育施設における体験活動プログラムの実証
- ・ヒアリング終了後、調査報告書としてまとめる。

(2) 調査時期

①事前調査

事業実施約3週間前に、参加者（障がい当事者）を対象に質問紙調査を実施。調査用紙をメールで送付し回答を得る。項目は、参加者に関する基本情報。

②事後調査

プログラム終了後、ふりかえりの時間に参加者及び介助者を対象に質問紙を配付し、回答を得る。また、必要に応じてヒアリングを行う。

(3) 調査対象

- ・29歳男性（帯広市在住）：身体障がい（肢体不自由・独歩）
- ・29歳男性（中札内村在住）：身体障がい（肢体不自由・独歩）
- ・48歳男性（帯広市在住）：身体障がい（肢体不自由・車いす使用）
- ・56歳男性（岩見沢市施設）：身体障がい（脳性麻痺・車いす使用）
- ・47歳男性（厚岸町施設）：知的障がい
- ・19歳男性（厚岸町施設）：発達障がい
- ・19歳男性（厚岸町施設）：精神障がい、発達障がい

(4) 調査員（研究員）

北海道立生涯学習推進センター職員

(5) 調査内容

①事前調査

質問項目

- ・障がい種及び診断された時期
- ・特別支援学校通学経験
- ・体験してみたい自然体験活動や体験ツアーの内容
- ・普段利用している社会教育施設やこれまで訪問した景勝地、北海道遺産等のスポット
- ・これまで利用した施設等について、障がい当事者として困ったことやこうしてほしいという要望
- ・普段実施している体験活動の種類や内容

① 事後調査

- ・障がい当事者の視点から見たプログラム内容についての満足度、感想、課題点など
- ・青少年体験活動支援施設を利用した感想、課題点など

4 調査の結果

(1) 障がい当事者に関する基本情報

項目	調査対象者A	調査対象者B
①障がい種別	身体障がい (肢体不自由：独歩)	身体障がい (肢体不自由：独歩)
②性別・年齢	男性・29歳	男性・29歳
③職種	事務職	公務員
④居住地域	帯広市	中札内村
⑤障がいに診断された時期	先天性	先天性
⑥特別支援学校通学経験	有り(高等養護学校)	有り(高等養護学校)
⑦体験してみたい自然体験活動や体験ツアーの内容	熱気球乗車体験 乗馬(トレッキング体験) (障がいによっては、引き馬体験)	ウィンタースポーツ (スキー、スノーボード等)
⑧普段利用している社会教育施設やこれまで訪問した景勝地、北海道遺産等のスポット	・釧路湿原(ネイチャーセンター) ・道立美術館・市立図書館 ・道内の道の駅 等	・札幌芸術の森美術館見学 ・支笏湖水濤まつり見学 ・洞爺湖水瀑まつり見学 ・ジブリの森美術館見学
⑨これまで利用した施設等について、障がい当事者として困ったことやこうしてほしいこと	困っていること、やってほしいということは特段ない。 両手で持ったり、支えたりすること等はできるが、麻痺のある右手単独の行動は難しい。	バリアフリー対応の飲食店の入り口が狭く、車椅子使用時にお店の選定が困難であった。 (事前にお店に連絡し、お店に確認が必要)
⑩普段実施している体験活動の種類、内容	不定期に市内のプールに行きスイミング	温泉施設にいき、サウナ活動
⑪その他	無し	冬のテントサウナを体験するのは初めて

項目	調査対象者C	調査対象者D
①障がい種別	身体障がい (肢体不自由：車椅子必要)	身体障がい (脳性麻痺：車椅子必要)
②性別・年齢	男性・48歳	男性・56歳
③職種	事務職	施設入所利用者
④居住地域	帯広市	岩見沢市
⑤障がいに診断された時期	24歳(運動中の怪我で脊髄損傷)	先天性
⑥特別支援学校通学経験	無し	有り(高等養護学校)
⑦体験してみたい自然体験活動や体験ツアーの内容	・わかさぎ釣り ・キャンプ	バーベキュー
⑧普段利用している社会教育施設やこれまで訪問した景勝地、北海道遺産等のスポット	・タウシュベツ川橋梁地蔵線巡り ・よつばアリーナ十勝	プラネタリウム
⑨これまで利用した施設等について、障がい当事者として困ったことやこうしてほしいこと	最近、道の駅で車椅子マークスペースにカーポートが設置されるようになったが、大きな柱が圧迫感があり、狭くて使いにくい	手すり片方しかない所が多い
⑩普段実施している体験活動の種類、内容	・車いすバスケットボール ・カーリング ・チェアスキー ・ソフトボール	・車いすマラソン ・クロスカントリースキー
⑪その他	無し	サウナに入ったこと有り

項目	調査対象者E	調査対象者F	調査対象者G
①障がい種別	知的障がい	発達障がい (アスペルガー症候群)	精神障がい、発達障がい(AD/HD、アスペルガー症候群)
②性別・年齢	男性・47歳	男性・19歳	男性・19歳
③職種	就労継続支援(B型)	就労継続支援(B型)	就労継続支援(B型)
④居住地域	厚岸町	厚岸町	厚岸町
⑤障がいに診断された時期	34歳	4歳	
⑥特別支援学校通学経験	無し	有り(支援学校)	有り(支援学校)
⑦体験してみたい自然体験活動や体験ツアーの内容	愛冠岬の鐘	フォトラリー	モニターが終わってもサウナ体験
⑧普段利用している社会教育施設やこれまで訪問した景勝地、北海道遺産等のスポット	ネイパル厚岸	ネイパル厚岸	無し
⑨これまで利用した施設等について、障がい当事者として困ったことやこうしてほしいこと	無し	無し	無し
⑩普段実施している体験活動の種類、内容	バレーボール、バドミントン、卓球	フリスビー	ボッチャ
⑪その他	無し	無し	無し

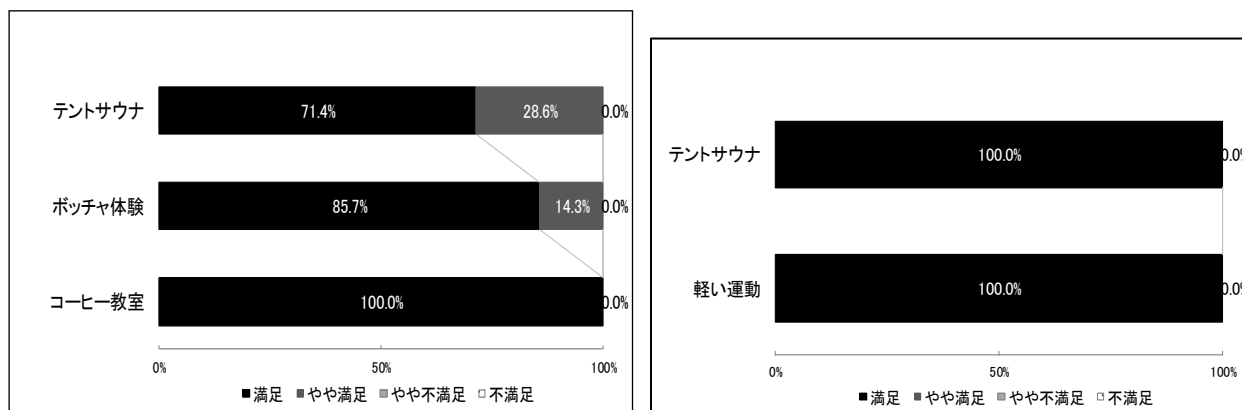
(2) 障がい当事者の視点から見たプログラム内容についての満足度、感想・課題点等

ア 満足度

参加者を対象に体験活動プログラムについての満足度に関するアンケート調査を行ったところ、下図のような結果が得られた。

ネイパル足寄における「テントサウナ」については、「満足」と回答した人が71.4%、「やや満足」が28.6%。「ポッチャ体験」については、「満足」が85.7%、「やや満足」が14.3%。「コーヒー教室」については、全員が「満足」と回答しており、いずれのプログラムも満足度の高い結果が得られた。

一方、ネイパル厚岸においては、テントサウナと軽い運動のいずれも満足度が100%だった。



体験活動プログラムについての満足度（足寄）n=7

体験活動プログラムについての満足度（厚岸）n=3

イ 感想等

①テントサウナ体験（共通）

- ・障がい者と健常者と一緒に楽しむことができたのでよかった。
- ・冬のテントサウナ良かったですが、夏場だと車椅子も動きやすく、水風呂も入れるのかなと思いました。
- ・ようやく車椅子でサウナ体験ができました。
- ・はじめての体験でよかったと思います。固定した椅子があったほうがよかったと思います。
- ・はじめての経験です。テントサウナ。
- ・また体験してみようと思いました。
- ・どの活動も障がいの有無に関係なく行うことができ、満足できた。（介助者）
- ・中も広く利用しやすかった。肢体不自由な方でも座りやすい椅子があると良かった。（運営者）
- ・参加者の笑顔がみられて良かった。寒さにより参加者の血圧が上昇するのが課題。（保健師）



屋外に設置した大小2種類のテントサウナ（厚岸）



消防署員による事前の点検（厚岸）



テント内でサウナに関する講義を受講（厚岸）



温まった体を森の中でクーリング（厚岸）



車椅子利用者がテントサウナを体験（足寄）



温まった体を水風呂でクーリング（足寄）

②ボッチャ体験（ネイパル足寄）

- ・障がい者と健常者が一緒に楽しむことができたのでよかった。
- ・就寝前の活動として良かったです。
- ・改めてボッチャの楽しさ、奥深さを知りました。
- ・はじめての体験だったので楽しく皆さまと触れ合う機会もできよい体験でした。
- ・障がい者スポーツとして皆で楽しむことができ良かった。（介助者）



3人1チームでボッチャの試合（足寄）



白熱した試合を展開（足寄）

③コーヒー教室（ネイパル足寄）

- ・障がい者と健常者が一緒に楽しむことができたのでよかった。
- ・コーヒーの入れ方により味が変わり、奥が深いなと感じました。
- ・同じ豆、水を使っても味が違うことに難しさと楽しさがわかりました。
- ・コーヒーが好きなのでよい体験ができて良かったです。
- ・身近なコーヒーという体験ができ、とても楽しめたと思います。（介助者）



満保所長によるコーヒー教室（足寄）



コーヒーのドリップ体験（足寄）

④軽い運動（ネイパル厚岸）

- ・きつかったけど楽しかった。
- ・楽しかったです。
- ・体全体を使ったうんどう。



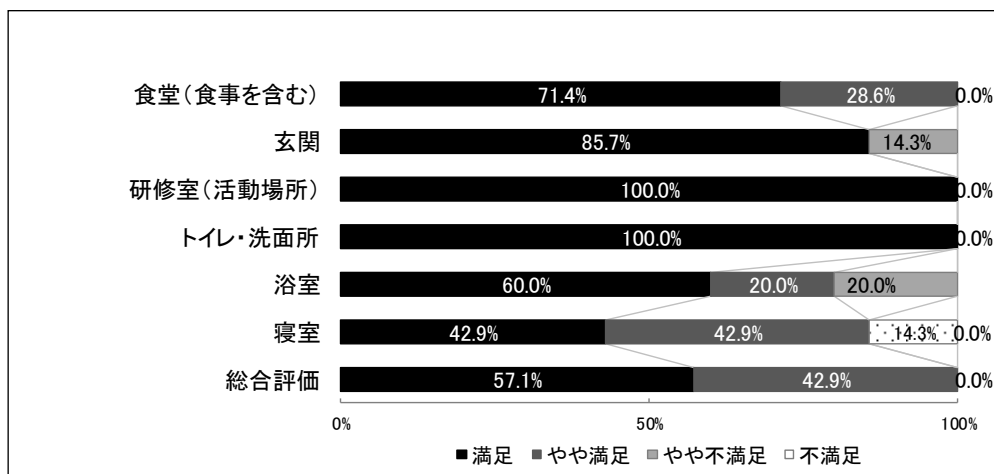
三間所長による軽運動体験（厚岸）



サウナ体験前に軽い運動で体を温める（厚岸）

(3) 青少年体験活動支援施設を利用した満足度、感想・課題点等

ア ネイパル足寄利用満足度（宿泊利用）



施設についての利用満足度（足寄）n=7

イ ネイパル足寄感想等（宿泊利用）

1. 食堂（食事を含む）

- ・品数が多く、美味しかったです。
- ・夕食はとてもボリュームがありありがたいです。
- ・食堂は広く利用しやすかった。（食事の）量もあり、満足できた。（介助者）
- ・若干塩分が多い。（保健師）

2. 玄関

- ・冬なので雪がありがたいへんでした。

3. 研修室（活動場所）

- ・場所が広く活動しやすかった。

4. トイレ・洗面所

- ・トイレ、洗面所が近くにあり、数ヶ所あるため、利用しやすかった。（介助者）

5. 浴室

- ・車椅子が入りずらそうにしていた時があった。
- ・スロープやシャワーチェアもあり入浴が楽しめました。
- ・健常者目線だが、車椅子ユーザーが多いと、脱衣所はせまいように感じる。
- ・車椅子でも入りやすいスロープがあり、利用しやすかった。
- ・浴槽の段差が肢体不自由の方でも入りやすいと良かった。床もクッション性が良い。（介助者）

6. 寝室

- ・寒すぎです。厚着して頭までふとんをかぶっていました。
- ・ベッドが低く、乗り移りはしやすかったと思います。（介助者）
- ・清潔で良かった。（保健師）

7. 総合評価

- ・スポーツ合宿（車いすバスケ）にも使用することができそうです。



車椅子利用者が利用した寝室（足寄）



多目的トイレ（足寄）

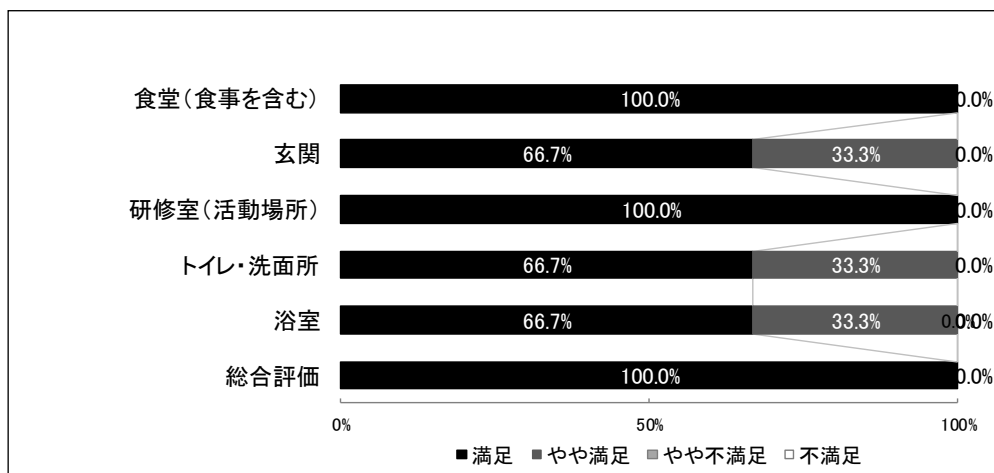


セルフサービスによる食事（厚岸）



食堂の配膳（足寄）

ウ ネイパル厚岸利用満足度（日帰り利用）



施設についての利用満足度（厚岸）n=3

エ ネイパル厚岸感想等（日帰り利用）

1. 食堂（食事を含む）

- ・おいしかった。
- ・ちょうどよい量でした。
- ・味つけが好みだった。

2. 玄関

- ・広くて良かった。
- ・広くて良かったです。
- ・くつの置場所に若干迷った。

3. 研修室（活動場所）

- ・いっぱい動けた。
- ・きれいで使いやすかったです。

4. トイレ・洗面所

- ・広くて良かったです。
- ・キレイなトイレでした。
- ・水洗ウオッシャーだったのでよくなったかなあと思う。

5. 浴室

- ・きれいでした。お湯の温度はちょうどよかったです。
- ・個人的には初めて入りました。
- ・広い所だった。ぬるめでした。

6. その他

- ・部屋の温度がちょうど良かった。

7. 総合評価

- ・良かったです。
- ・サウナ体験が出来る所。
- ・ちょくちょく使わせてもらってます。体育館も広いので良いと思います。

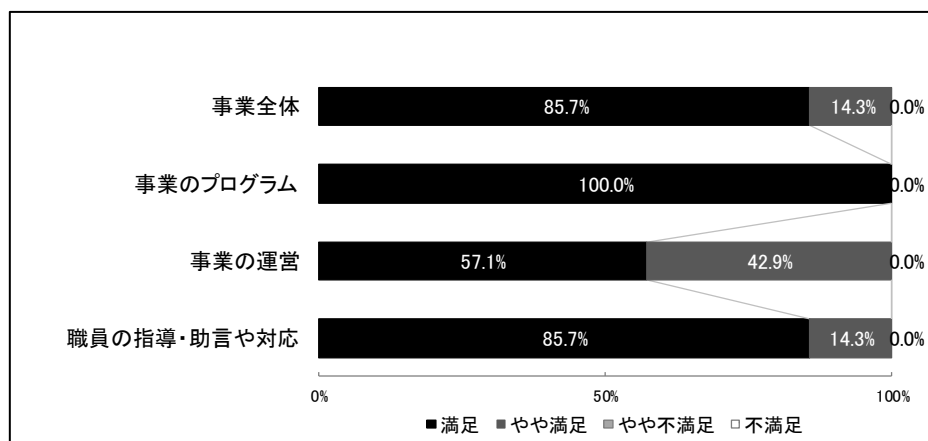
(4) 調査を通して得られた結果

ア 体験活動プログラムについて

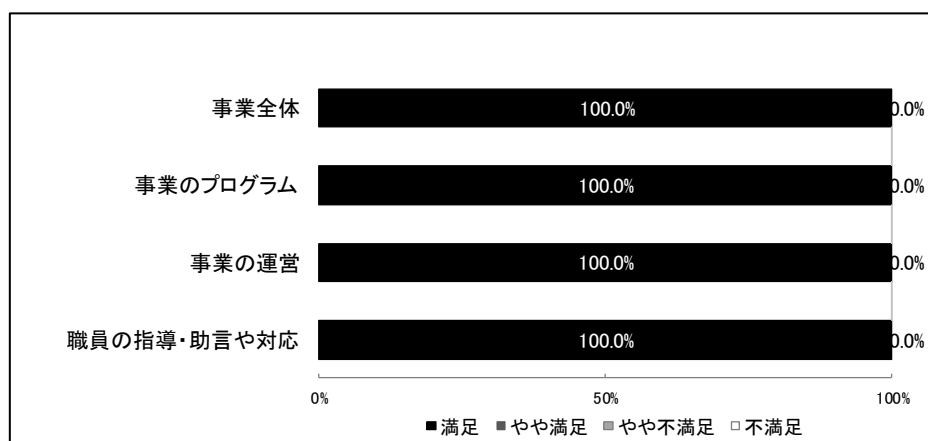
- ・テントサウナについて、中が広く、車椅子の利用者でも満足する体験ができた。課題としては、固定した椅子の設置と水風呂への対応が挙げられる。
- ・ポッチャ体験について、集団で楽しむことができ、参加者同士の触れ合いの機会となった。また、ルールや競技の内容についてもわかりやすく、初心者や障がい種にあまり関係なく競うことができるので、満足度の高い活動となった。
- ・コーヒー教室について、入れ方により味が変わることを体験したが、その味には障がいの有無に関わらず個人差があることがわかり、非常に満足度の高い活動となった。
- ・軽い運動については、知的障がい者や精神障がい者にとって参加しやすく、屋外にあるテントサウナの体験活動の前に適度に体を温めることができた。

イ 施設について

- ・食堂については、車椅子利用者にとっても広くて利用しやすかったようだが、手洗い場については、水道の蛇口の高さは適切でも、その下は、車椅子が入れるスペースがほしいとの意見があり、改善が必要である。
- ・玄関については、バリアフリー化されているが、冬季の積雪時には車椅子利用者にとっては自力での移動が困難であり、介助が必要不可欠である。
- ・トイレについては、車椅子利用者が利用できる多目的トイレが複数設置されており、利用しやすかったとの感想が寄せられた。
- ・浴室については、スロープやシャワーチェアなど車椅子利用者が利用しやすい環境が整備されていたものの、脱衣所が少しせまく、浴槽の段差の解消や床のクッション性の確保など課題点が明らかになった。
- ・寝室については、ベッドが低く車椅子利用者でも乗り移りがしやすかった。
- ・総合的に、車椅子利用者にとって満足度の高い結果が得られた。今後は、車いすバスケットなどのスポーツ合宿にも使用できるのではとの参加者の意見を踏まえ、より多くの障がい者の方に利用していただき、障がいの有無に関わらず利用できる施設を目指し、更なる改善が望まれる。



事業の実施内容についての満足度（足寄） n=7



事業の実施内容についての満足度（厚岸） n=3

5 考察（成果と課題）

（1）成果

- ・前年度はコロナ禍において、当事者の方を対象にした実際の体験活動を実施することができなかったが、今回はコロナ対策を十分に行った上で、障がい当事者による実地体験を通じた調査を実施し検証できたことは大きな成果である。
- ・参加した当事者の障がい種は、肢体不自由者のうち、車椅子利用者とそうでない人、知的障がい者や精神障がい者などであり、多様な障がい者の視点から意見を聞くことにより、実施した事業の検証を深めることができた。
- ・身体障がい、知的障がい、精神障がい、発達障がいなど障がいの特性を踏まえた配慮すべき内容を確認することができた。
- ・施設の日帰り利用だけでなく、宿泊を体験してもらうことにより、寝室や洗面所など施設の障がい者への対応等について当事者から意見を聞くことができ、障がい者へ対応した施設整備の課題点が明らかになった。
- ・障がい者は、健常者と一緒に活動することを望んでいることがわかった。障がい者はこれまで障がい者だけで活動に参加することが多かったが、今回健常者と一緒に活動し、その喜びを感じることができた。このことから、インクルーシブの重要性が明らかになった。
- ・体験活動を実施する場合は、施設の設備等の整備だけでなく、運営スタッフなどの十分な人的な支援体制が必要であることがわかった。
- ・参加者の特性を事前に調査して把握することにより、施設の必要な環境整備や人的な支援体制を準備することができ、安全かつ参加者の満足度の高いプログラムを提供することが可能になることがわかった。

（2）今後の課題

- ・様々な障がいを持つ人を対象にしたプログラムを開発するためには、今回対象としなかった他の障がい種、例えば、視覚障がいや聴覚障がいを持つ当事者を対象に調査を実施し、検証する必要がある。
- ・参加者から障がい者のスポーツ合宿での利用について提案があったことから、青少年教育施設など社会教育施設において、障がい者スポーツに関するモデルプログラムを開発し検証する必要がある。

ある。

- ・各地域で障がい者の取組を支援する人材の増加、普及啓発や人材育成に向けた取組を行うなど、障がい者の学びのニーズを踏まえた合理的配慮を含む必要な支援体制の構築を図る。
- ・障がい者と健常者が一緒に活動するインクルーシブによる生涯学習活動や自然体験活動等の事業を各地で実施するとともに、それを検証しながら、障がいの有無に関わらず、全ての人が体験できる共生社会の実現を目指す。